

医療

健康

患者に寄り添う

美奈川 由紀 ▼▼▼ 18



「アジア・アスベス ミナー」で意見を交わす。3日、北九州

強く説明。ようやく麻薬の使用に納得したのだ。

だが男性患者は再び麻薬使用を拒んだ。薬の説明のため訪問した薬剤師が麻薬の副作用を詳細に話し、加えて「麻薬を使うのは早すぎるのでは？」と助言したからだ。

一週間後、患者は「くた」になった。山崎さんは「連携がうまくいかなかった結果です」と嘆く。

山崎さんは「私たちは、患者さんの人生の大切な最期にかかわらせてもらっています。最期を決めるのは患者さん本人



西宮市社会福祉事業団の訪問看護センターでは、退院する患者や家族に、医師や病棟看護師、訪問看護師、ヘルパーなどが退院指導を行っている

「これまで各国が別々に取り組んできたアスベスト問題で、連携を図ろうという新たな動きがきっかけになった、今回の取り組みは有意義で評価できる」と期待を寄せる。

「訪問看護の存在はあまり知られていないのが現状ですね」。兵庫県西宮市社会福祉事業団の訪問看護センター（訪問看護ステーション）で在宅患者の看護にあたる山崎和代さん（41）はそう言う。保健師の資格も持つ山崎さんは消化器外科病棟の後、外来に勤務。このとき出会った一人の患者に影響を受けた。

二十年前ほどのことで、末期がんの患者だった。病状は悪くなり、寝たきりになることは予想ができた。しかし、担当医は外来で診察をするだけ。このままでは大変な

訪問看護の制度を知って

た。担当の訪問看護師は、痛みをコントロールできると生活の質（QOL）が上がることを根拠にすすましても言う。医師や私たち看護師は、患者さんが自己決定できるだけの情報を提供する必要がある。患者さん本人に

訪問看護を終了する人の半分は死亡によるものという。ただ、患者が「えらい瞬間だ。」「患者の居場所は家で

は花を手に、お宅を訪問することがある。「家に帰れてよかった」「看護師さんに来てもらって良かった」といった声を聞くことが、何ものにも替え難い瞬間だ。

訪問看護の認知度はまだまだ低い。介護保険でサービスを利用する場合、限度額との関係で生活サポートが重点となり、訪問看護師よりヘルパーが選ばれることが多いのが現状だという。訪問看護の認知度の向上と制度の確立に向け、新たなシステムの構築に期待したい。

（みながわ・ゆき、シャナリスト、看護師、福岡市西区）